

ご存じですか？ まち+ing マーケティング活動

丸山 恵 右
(丸山印刷株式会社)
代表取締役社長



弊社は情報系商業印刷、平たく言うとチラシ・パンフなどの広告宣伝物が中心の、典型的な地方の印刷会社です。このコロナは、特定の業種・会社を直撃しました。その業種の一つです。印刷物は人を集めたり、集まった人に情報を伝えるためのツールです。コロナは、集まっては、密は、ダメなのです。大きな打撃を受けました。カレンダー展で総理大臣賞や金賞を受賞した企業様の企画カレンダーの製造、ラベルや包装紙などの資材品、そして事務用品などが被害を少し緩和してくれました。地方で「選択と集中」ができなかったことが幸いしたように感じます。また、昨年11月に事業再構築補助金も採択されました。商工中金様と一緒に、次のステージに進む改革に取り組むことができつつあります。他方、コロナはプラス面もあるのではないかと感じています。日本の産業の過度に多層的な面が修正され、価格だけが基準でない方向が生まれつつあるような（私の希望ですが）。また、デジタル・通信の利用で、働き方改革が大いに進んだり、パートさんの労働時間と社会保険料との関係が変化したり、働く意識・枠組みが変わりつつあります。昔、言われたパラダイム転換を、最近実感しています。

さて、本題です。私はそれなりの年齢（70歳）になり、最近姫路の淳心学院という地方の中高等学校（50年以上前に卒業）の同窓と一緒に、「神戸・播磨出会い百景」というフェイスブックを立ち上げました。西國街道沿いの歴史的な建物、ややマイナーな場所などを取り上げています。これによって地元の人たちに、住んでいる地域への愛を深めてもらいたいと思っています。「こんな所もあったんか、そんな歴史もあったんか、知らなかったわ」と教科書などには載っていないことを、知る楽しみ・共感する喜びを感じてほしいのです。それらは、往来する人たちにも感じていただけるはず。いつかマイクロツーリズムやインバウ

ンドにちょっとだけでもつながり、地元のお役に立てないかと思っています。

この私たちの動きは、まち+ing マーチング活動、という全国約60社の中小企業の印刷会社がおこなっているSDGsにも認定された活動のひとつです。文京区の株式会社TONEGAWA様、山梨の株式会社アドヴォネクスト様を中心とした、心温まる



まちなみイラストをつくって、人を、まちを元気にしていく活動です。まちを愛する心が人を元気にし、地域が元気になり、企業も元気になります。

私のふるさと播州高砂出身の工楽松右衛門は、地元の綿を使った強い帆をつくり、北前船貿易を安全にし且つ活性化させました。その後を淡路の高田屋嘉兵衛が継ぎました。イノベーションが地域の産業を一変させたのです。同時代に商売で大成功した後、歳を取ってから好きな学問の道に入った山片蟠桃も高砂の出身です（これらは、玉岡かおるさんの歴史小説『帆神』を

読んでもらえればありがたいです。もちろん小説です。フィクションです）。



山片蟠桃『夢の代』の写本の複製

今後

も地域の仲間と共に、西國街道沿い・兵庫県南部を紹介する活動を続けていきます。この地域の「もの」と「こと」を多くの方々に知っていただき、地元で生産された米・水・塩・酒・醤油・麺・魚・肉などを楽しんでいただきたいと思います。

コロナ禍は大きなインパクトを世の中に与えました。その影をいやしながら、人々の暮らし方も産業も、よりよい方向を模索したいものです。